

令和元年度 施設分析シート

<b>I 施設の概要</b>		施設コード	S07-01-01		
施設名	あらかわエコセンター				
所在地	荒川一丁目53番20号(心身障害者福祉センター併設)				
部課名	環境清掃部環境課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容(単位:千円)		
	建築	1972年	140,000	国・都	区債
	増改築①	1980年	130,000		一般財源
	増改築②	2011年	150,000		
併設施設					
竣工年月日	1972年		常勤・非常勤	その他	
供用開始年月日	平成21年2月1日		職員数	30人	0人
構造	RC造		階層	地上3階	
面積	敷地面積		2,386㎡		
	延床面積		1,218㎡		
設置目的・経緯	環境先進都市を目指し、環境学習や情報提供など、環境施策を総合的に推進するための区民等の自主的な環境活動の拠点				
関連部署	福祉部障害者福祉課				
根拠法令等 設置条例	荒川区立環境学習情報センター条例				
駐車場の状況	10台	バリアフリー	●エレベーター	●だれでもトイレ	
駐輪場の状況	45台	対応状況	●点字ブロック	●スロープ	



**II 管理運営の状況**

管理形態	その他	2階部分は直営。 3階はNPO法人エコ生活ひろめ隊に委託	期間	平成31年4月1日 令和2年3月31日	から まで	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境の保全に関する情報の収集及び提供に関すること</li> <li>環境の保全に関する講演、講座等の開催及び活動の場の提供に関すること</li> <li>環境の保全に関する学習及び環境教育に関すること</li> <li>環境の保全に関する活動を行う区民及び団体の支援に関すること</li> </ul>					
対象者	一般区民ほか					
運営時間等	運営時間	午前9時～午後5時(ただし、午後9時までは環境研修室等の貸出しあり)				
	休日	土・日・祝日、年末年始(ただし、月1回半日 日曜(又は土曜)開館)				
施設基本データ等	年間利用者数(人)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(見込み)
	開館日数(日)	15,949	15,662	15,902	17,112	18,000
	講座参加者数(人)	243	255	256	256	252
	講座開催数(回)	917	1,072	1,364	1,659	1,700
		36	77	76	81	85
に指定 に係る 管理 費用等						
備考	利用者数は、研修室、環境実習室、環境情報提供コーナー及び環境活動支援支援コーナーの数値である。講座の参加者数及び開催数は、区の主催事業(委託による実施を含む。)に関する数値である。					

**III 財務諸表**

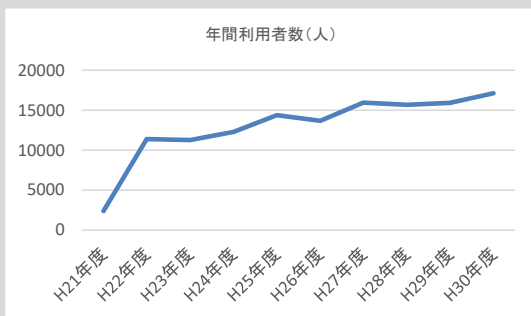
(単位:千円)

	勘定科目			勘定科目				
	H29年度	H30年度	差額	H29年度	H30年度	差額		
行政コスト計算書	給与関係費	189,531	178,205	▲ 11,326	地方税等	0	0	0
	物件費	6,802	11,283	4,481	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	256	1,898	1,642	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	332	341	9
	減価償却費	6,683	6,683	0	その他	22	17	▲ 5
	不納欠損・賞倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	354	358	4
	賞与・退職給与引当金繰入額	28,438	9,653	▲ 18,785	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 231,356	▲ 207,710	23,646
	その他行政費用	0	346	346	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	231,710	208,068	▲ 23,642	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 231,356	▲ 207,710	23,646
	特別費用(g)	215,140	0	▲ 215,140	特別収入(f)	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	▲ 215,140	0	215,140	当期収支差額(e)+(h)	▲ 446,496	▲ 207,710	238,786	
貸借対照表	勘定科目			勘定科目				
	H29年度	H30年度	差額	H29年度	H30年度	差額		
	流動資産			流動負債				
	収入未済	0	0	0	9,826	9,653	▲ 173	
	不納欠損引当金	0	0	0	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	0	0	0	
	有形固定資産	299,354	292,672	▲ 6,682	特別区債	0	0	
	土地	265,981	265,981	0	賞与引当金	9,826	9,653	▲ 173
	建物	307,343	307,343	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	▲ 276,608	▲ 282,755	▲ 6,147	固定負債	167,172	115,650	▲ 51,522
	工作物等	7,997	7,997	0	特別区債	0	0	0
工作物等減価償却累計額	▲ 5,358	▲ 5,894	▲ 536	退職給与引当金	167,172	115,650	▲ 51,522	
無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
建設仮勘定	0	0	0	負債の部合計	176,998	125,303	▲ 51,695	
その他の固定資産	0	0	0	正味財産	122,356	167,369	45,013	
資産の部合計	299,354	292,672	▲ 6,682	正味財産の部合計	122,356	167,369	45,013	
				負債及び正味財産の部合計	299,354	292,672	▲ 6,682	
備考	行政費用の主要部分はエコセンター(環境課)に勤務する職員の人件費である。物件費は、エコセンターの管理・運営に係る委託料、消耗品費等である。30年度のその他行政費用は屋上点検用タラップ等の取付工事経費である。行政収入では目的外使用料のほか、その他収入として太陽光の売電や情報公開手数料がある。							

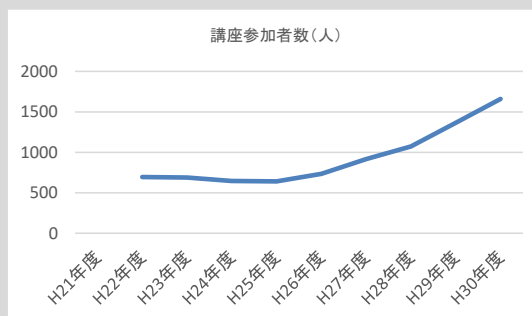
指標		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度(見込み)
財務指標	有形固定資産減価償却率(%)	-	19	89	91.5	
	1㎡当たりコスト(円)	-	211,640	190,238	170,828	
	人にかかるコストの割合(%)	-	84	94	90.3	
	開館1日当たりコスト(円)	-	1,010,890	905,117	812,766	
	利用者1人当たりコスト(円)	-	16,459	14,571	12,159	
	区民1人当たりコスト(円)	-	1,209	1,087	976	
評価指標等						
備考	利用者数の増加等に伴い、利用者1人当たりのコストが減少した。					

#### IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名: )					
目標指標	指標名・単位	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度(見込み)
	年間利用者数(人)	15,949	15,662	15,902	17,112	18,000
施設運営の方向性	<input type="radio"/> 転用・多目的化 <input type="radio"/> 民営化 <input type="radio"/> 他施設との統合 <input type="radio"/> 廃止 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> その他( )					
管理形態の変更の推移	<input type="radio"/> 有 (変更内容: ) <input checked="" type="radio"/> 無					
利用者・地域のニーズ						
現状・課題	<p>○広く区民にエコセンターを知ってもらう方が必要である。</p> <p>○環境に興味の薄い区民、子どもへの環境意識を向上させる取組が必要である。</p> <p>○水素エネルギーの普及など、時代に即した効果的な展示等での啓発が必要である。</p> <p>○3階情報提供コーナーの管理・案内及びみどりのカーテン講座運営業務を、NPO法人による実施とし、環境活動の担い手の支援・育成を図るとともに、区民同士の環境情報交換の場となっている。</p> <p>○心身障害者福祉センター(荒川たんぼぼセンター)との複合施設であるため、環境・福祉両分野の連携・協働を図っている。</p> <p>○新たに街なか図書館の一つとしても機能させつつ、他の施設、他の団体との連携・協働を図りながら、効果的な取組を行っていく。</p>					
課題に対する現時点での考え	<p>○子どもから大人まで全ての世代の興味を引き付ける環境活動、イベントの充実を図っていく。</p> <p>○子どもが楽しく興味を抱くような、自然観察や生物多様性に関する事業を積極的に展開する。</p> <p>○水素エネルギーの普及など新たな課題に的確に対応できるような機能の充実を図る。</p> <p>○環境活動の担い手の育成のため、環境活動の拠点として活動の輪が広がるよう充実を図る。</p> <p>○「たんぼぼフェスタ&amp;秋のエコフェスタ」等のイベントや、環境学習農園での自然との触れ合いなどを通じ、環境・福祉両分野の更なる協働に取り組んでいく。</p>					
議会、利用者等からの意見	平成28年11月会議 リサイクルセンターとの連携について					



環境情報提供コーナーの運営内容の見直しや、土日開館の実施により、少しずつ利用者数が増加している。



夏休み期間中の講座の充実や、エコジュニアクラブの実施等により、講座の参加者数が増加している。